

「分娩取り扱い一次施設で勤務する私から若い先生方へ」

医療法人社団中林病院産婦人科 中林 靖（学会幹事・評議員）

私が本学会に入会および学会発表をしたのは平成 22 年に開催された学術集会の時でした。その時の私は、総合周産期センターに勤務する卒後 5 年目の後期研究医でした。発表内容は帝王切開における危機的出血に関する研究で、これを機に分娩時出血に対して興味をもち、本学会の学術集会に毎年参加しています。

平成 27 年(卒後 10 年目)より、分娩取り扱い一次施設である現職に異動しました。この時から分娩時危機的出血は、私の中で「興味」から「恐怖」に変わりました。一次施設である当院では設備・人員の限りがあるため、ハイリスク妊産婦の周産期管理は行っていません。しかし、ローリスク妊産婦の分娩において、分娩時危機的出血は一定の割合で起こります。近年注目されている子宮型羊水塞栓症も当院で経験しています。このような症例に出会った時、私は「本学会で危機的出血に対する strategy を学んでいて本当に良かった」と思いました。幸い当院で発症した分娩時危機的出血症例は、近隣の周産期センターの協力もあり全例救命することができています。

分娩時危機的出血は妊産婦死亡に関与します。本学会では分娩時危機的出血の対応をはじめ周産期における血液学の最新の知見を得る事ができ、臨床に直結します。全ての産婦人科医、とくに分娩を取り扱う若い先生には本学会への入会をお勧めします。ぜひ一緒に学びましょう。